

豊橋の新しい景観計画がスタート！

～ 豊橋らしい こちよい景観を ともに育みましょう ～



わたしたちのまち豊橋は、温暖な気候に恵まれ、市街地が里山、川、海、田園といった多様な環境に優しく包まれています。また、かつて、城下町、宿場町、湊町として栄え、自然と共生しながら発展し、都市と自然の調和した景観が形成されてきました。

豊橋市では、こうした恵まれた環境を大切に、ひとり一人がともにちからを合わせ、優れた景観を守り、活かしながら、誇りと愛着のある豊橋らしいこちよい景観を育てていくことを目指し、景観法に基づく景観計画をまとめ、令和3年4月から運用を開始しました。

**市民・企業・行政の一人ひとりの思いと、
景観資源を活かした取り組みが大切です！**

景観計画には、良好な景観形成の方針や地域ごとの景観配慮指針などをまとめています。

調和のとれたこちよい景観は、市民や企業、行政の一人ひとりが思いを持って、力を合わせて取り組むことで育まれていきます。

そこで、**基本理念を「ともに育む 豊橋らしい こちよい景観」と**しました。また、豊橋らしい景観づくりを進めるには、豊橋の景観資源を活かすことが大切であるため、**基本方針を「地域の成り立ちや景観資源を大切に、地域らしい景観に磨きをかける」と**しました。



★ 詳しくは、豊橋市都市計画課
ホームページへ

<https://www.city.toyohashi.lg.jp/13439.htm>



◆ 市電は豊橋にとって大切な景観資源！



■ 豊橋の市電は、「美しい愛知づくり景観資源」(愛知県募集) に選ばれています。



■ 景観計画の策定時に行った市民ワークショップでは、「守り・育てたいまちの景観」として「市電が走る、ほのぼのする景観」があげられました。

また、市民アンケートでは、「市電のラッピングの改善」の意見がありました。

◆ 美しいデザインで、企業とまちの魅力アップ ◆ 使いませんか！ 【車体広告デザインの手引き】

豊橋では、これまで、市電をまちのシンボルとし、センターポール化をはじめとした道路景観整備など、市電を活かした魅力ある都市整備が官民一体で進められてきました。

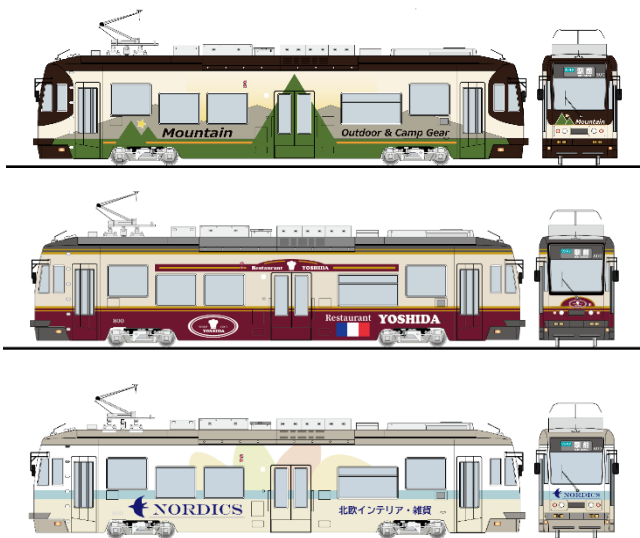
一方で、市電の車体広告について、収益の確保と景観への配慮を両立することが課題となっていました。

そこで、『路面電車 車体広告デザインの手引き』を作成しました。「景観に配慮し、まちの魅力を高める」、「美しく表現し、心地よく伝える」といった車体広告の姿勢や、具体的なデザインの際に参考となる配慮点などをまとめています。

美しいデザインで共感を生み出そう！

車体広告のデザインは、社会に対する企業の姿勢も表します。周辺景観に配慮したデザインで魅力ある景観づくりに貢献すれば、市民の企業に対する共感が生まれ、社会的評価や企業価値も高まるでしょう。

企業とまちの魅力アップのために、本手引きを是非ご活用ください。



▲ 手引きに掲載されているデザインの一例



▲ まち並みやセンターポールに調和するようデザインされた“豊橋けいりん号”